

發心不正萬行空施

立 花 俊 道

佛教は八萬四千の法蘊とか、五千四十八卷の經文（今ではそれ所でなく、もつと多い）とかいつて、その教は極めて複雑多岐であり、深遠微妙であり、それを説ける經典も亦至つて浩瀚なものであるが、一面から見れば佛教は單に治心の教、修行を説くの教である。これは佛教を佛教と呼ばずして、佛法と呼び、更に佛道と呼ぶと一層この感を深くするのである。

修證とは修行と悟り、修行した上で悟りを開くことをいふ。發心修行菩提涅槃といふが、これは第一の發心とは菩提心を起すこと、行菩薩道の誓願を立てること、發菩提心とか發無上意といふも同じことである。永劫の未來に於て佛果菩提を成じようといふ大誓願心を發すことで、言はば成佛に就ての一大決心である。觀音經の偈文の中に「發大清淨願」といつてある。菩薩とはこの誓願、弘誓、大清淨願を發して、成佛への長途旅行へ一步踏出した人の謂である。この發心の次には、修行といふものがなければならぬ。この修行たるや實に長劫の修行で、これによつて一步一步佛果菩提へ接近して行く。時に或は退轉することがあるかも知れない。一步進んで二步退くといふやうなことがないとも限らぬ。しかし最後の目標たる佛果菩提は決して見失ふことがない。進歩の步調が如何に緩漫であつても、向上の程度が如何に微少であつて

も、又不調子であつても、例へば時には一日一キロ十キロも進むのに、時には一日一メートル或は一センチほどであつても、決して絶望の聲を揚げない。幾百億生を経とも決して期待を捨てない、徐々たるしかし、確乎たる歩武を進めて行くといふのが、佛道の修行者らしい態度である。斯うして幾百千億生の修行を経て菩提は事悟りを得、更に又涅槃を得る。これを發心修行菩提涅槃の四法と呼ぶ。この四を次ぎ次ぎに果すことに努力するのが創造主義であり、一種の優良文化主義である。つまり創造精神、文化精神の發露である。

高祖大師は『學道用心集』の中に古人の語として「發心不正萬行空施」の一句をお引きになつた。これは、よし發心しはしても、この發心が正しき發心でない、邪惡な發心、邪道を表す發心であれば、その後には續いて來る萬行即ち修行の階段の萬般は總て無駄となる。一として效力を生じない。例へば盲彈の如きもので爆發炸裂しない、或はよし爆發炸裂しはしても、それが間違つた結果を生じて、眞に發射の目的に副はないやうなものである。されば吾々は先づ發心が正しいか否かを問題としなければならぬと、斯う仰せられるのである。高祖大師は又「學道丈夫先須知向上道之正不正」と仰せられて居るがこれも正しくこの意味である。

この「發心不正萬行空施」の語は實に含蓄多き語である。倫理學の動機論では動機の善不善正不正を問題として取扱ふ。善なる動機、正なる動機は勿論倫理學的にはよい動機である。しかしその善正の動機をこの正しき發心と比較して見たらば、如何であらうか。私の考では正しき發心は倫理學的正義の動機以外、有機的にその目的を果すやうに精神が向けられて居るや否やを問題とすると思ふ。つまりその發心は正であり善であつて、倫理學的に非難さるべき點がないばかりでなく、一體有機的にもそれが確實に目的達成出來るやうに向けられて居なければならぬ。然らざればそれは正しい發

心ではない。間違つた方へ向つて放つ鐵砲同様、所期の目的を達しないことは當然である。

この頃汽船にチャイルスコープといふコンパスを据付ける。これは例へば船がハワイから横濱へ航行するに當つて、その船がハワイのホノルル港を出ると、このコンパスによつて船の方向を横濱へ向ける。さうすれば船は一人手に横濱へ向つて進む。途中大小の風浪のために船の方向が歪められることがあつても、その風浪が靜まると、船は又元の方向へ還り、何事も起らなかつたかのやうな顔をして横濱指して進む。鳥獸の本能でもあるかのやうに横濱の方へ進んで來るといふことである。

天台宗では「初發心時便成正覺」と教へる。「初めて發心の時便ち正覺を成す」と讀む。初めて菩提心を起した時、即ち發菩提心の當初は、佛果菩提を成じて居るといふ意味であるが、これは正しい菩提心を起したらば、それで以て正覺を成すべきことが疑はれない保證されるからして、正しい發心、正しい修行、而して正しい菩提即ち悟りと、斯うした順序に續いて出るわけである。

上の船を譬ていうと、この船はハワイ出帆の際正しい發心をした、隨つて横濱入港の佛果菩提を果すべきことが約束されて居る。ハワイを出帆する人たちは「もう、横濱入港は確かです、これで横濱入港も同然です、これから一時間一時間横濱入港をやるのです」といふであらうと思ふ。斯うしてハワイ出帆の際横濱入港が保證されたり、同一視されたり、毎時間入港を實現してると信じられたりする所に初發心時便成正覺の意味が現はれて居るものと思はれる。

吾々は勿論凡夫である、しかし正しき發心をなして正しき聖なる目的地、勃陀勃地ブツダブツヂを目標として修行の歩武を進めて居る以上は、普通の凡夫ではない。凡夫は凡夫でも聖なる凡夫である。吾々の行は凡夫行でなくして聖行である。吾々は歩

一步佛果を實現しつゝ進んで居るからには、吾々の行ふ所の諸善萬行悉くこれ佛作佛行である。この意味に於ても亦發心正しからざれば萬行空しく施すことになり、發心正しければ、萬行悉く效ある所ではなく、一行一事佛光明を放つて來るといへると思ふ。